能登の震災

年が明けて、また悲惨な地震が能登半島に起きた。今回は元旦に起きたこともあって、東日本大震災とは異なったある種の恐怖感を覚えた方も多いのではないだろうか。日本という太平洋上に浮かぶ島国は、マグマの影響を受けやすく、かねてから地震に対する心構えができているのだが、我が身に降りかかると思っている人は、実は少ない。人間というのは、往々にして傍観者的なものの見方をするもので、さまざまなトラブルが自分自身に振りかかってくることでしか、自覚できない。

能登半島といえば、朱鷺（とき）の台カントリークラブや能登カントリークラブなど、日本海の沿岸から吹く風に悩まされるコースが多い。特に、全英オープンの登竜門にもなっている「ミズノオープン」が開催される朱鷺の台カントリークラブは、日本のゴルフ場の中でも、名門の一つである。

営業を再開しているコースもあるようだが、残念ながら断水の影響などで、完全な状態とはいえないところも多いと聞く。一方で、朱鷺の台カントリークラブは、被災直後から地域住民を２００人ほど受け入れ、地域に貢献しているらしい。

昨年、日本女子オープンを開催した芦原ゴルフクラブは、幸いにも高台にあったことから、地震発生の当日には津波から避難する住民の避難場所として使用された。現在もまだ余震が続いているが、各ゴルフ場がそれぞれの施設を開放し、地域に貢献しているというニュースを聞くと、どこか心強い感じがする。

テレビで見る一見華やかなゴルフトーナメントなども、地域とそこに住む住民のボランティアたちの活動がなければ、開催できない。むしろ、災害復興の折には被災地をヘルプするようなトーナメントを開催したい。少しでもお力添えができればと考えている。

ゴルフというのは、球技の一つだが、プレーを支えているのは、実は自然そのものである。設計されたコースで風や、雨や、時には猛暑と戦いながら、いかにしてプレーヤーが技術を発揮できるか、というのがこの競技の本質である。その意味で、地震をはじめとしたあらゆる天災をゴルフプレーヤーとして真正面から受け止めることも、必要なこと。我々人間は、どこまで行っても自然をいかに取り込むか、ということで生きているのである。

この度の被災者の皆様の健康と復興、そして不幸にして亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げたい。

戸張　捷　Sho Tobari

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、３年で全日本ジュニア３位、大学４年で日本アマ９位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。